

# 「文型」とは何か

——日本語教育における「文型」の位置づけ——

蒲谷 宏・小出美河子・新居田純野  
久光直子・深田嘉昭・辺土小枝子  
山下喜代

## はじめに

「文型」というものを再考察するための前提としての論考「文型」をめぐる問題点<sup>1)</sup>において、「文型」に関しては①「本質」の問題、②「表現」の問題、③「研究」の問題、④「指導」の問題が存在する、ということを指摘した。

その中でも、①の「文型」というものの「本質」が明らかになっていないという問題点は、他の問題点すべてに関わるという意味において、最も重要なものであるという評価が得られた。

本稿は、そうした点を踏まえ、「文型」の本質を明確にするための第一段階として、

- (1) これまでの日本語教育に関する研究において、「文型」がどのようなものとして規定されてきたのか、また、どのように扱うものであるとされてきたのか
- (2) これまでの日本語教科書・教材において、「文型」がどのように扱われてきたのか

---

1) 『講座日本語教育』第30分冊（早稲田大学日本語研究教育センター、1995. 3）

という二点について考察したものである。

考察にあたり、

- (1) については、a. 「文型」という術語に関する辞典・事典類の記述、b. 「文型」という術語が表題にある文献・論文類における「文型」についての記述を整理、分析する
- (2) については、主要な日本語教科書・教材類の「前文」「本文」において、「文型」という術語が明示的に使用されているかどうかについて調査、分析する

といった方法を用いることにした。これは、日本語教育における「文型」が(1) 研究的立場(2) 教育的立場それぞれにおいてどのように捉えられてきたのかを、できるかぎり客観的に調査・整理・分析しようとしたためである。

「研究文献・論文類」と「教科書・教材類」とは性質の異なる調査対象であるためそれぞれを分けて考察したが、(1) の研究的立場は「教育」を考慮し、(2) の教育的立場は「研究」を前提としており、両者が密接な関係にあることは言うまでもない。特に「教科書・教材類」の「前文」は、そこに編著者の考え方が明確に現われていると考えられるため、(1) との関連性が強いものであるといえよう。

なお、本稿も前稿「「文型」をめぐる問題点」と同様、早稲田大学日本語研究教育センター「日本語研究講座」設置科目「特殊研究2・文型研究」の参加者によるものである。

## 1 「研究的立場」における「文型」

本章では、「辞典類」や「研究文献・論文類」において、「文型」がどのように扱われてきたかを概観する。研究論文は、タイトルに「文型」という語が含まれているもの限定して収集し、辞典類は「文型」の項を調査した。両者とも、文中で「文型」に言及している部分を抜き出し、内容整理を行った。今回調査を行った文献は、以下のとおりである。

① 辞典類(書名 50音順)

- 『国語学研究事典』 佐藤喜代治編 1977 明治書院  
『国語学辞典』 国語学会編 1955 東京堂出版  
『国語学大辞典』 国語学会編 1980 東京堂出版  
『新版日本語学辞典』 杉本・岩淵編 1994 おうふう  
『日本語教育事典』 日本語教育学会編 1982 大修館書店  
『日本語教育入門用語集』 「日本語教師読本」編集部編 1989 アルク  
『日本語教育ハンドブック』 日本語教育学会編 1990 大修館書店  
『日本国語大辞典』 日本大辞典刊行会編 1972 小学館  
『日本語百科大事典』 金田一・林・柴田編 1988 大修館書店  
『日本文法事典』 北原保雄編 1981 有精堂  
『日本文法大辞典』 松村明編 1971 明治書院

② 研究論文・文献類(執筆者 50音順)

- 石垣貴千代(1977)「初級日本語の文型テストについて 書き試験」  
『日本語教育』32 日本語教育学会  
今田滋子(1981)「中・上級日本語教科書の否定文型 呼応副詞を中心に」Annual Reports 6 国際基督教大学  
大木隆二(1979)「格助詞「ニ」にみる文型のながれ」『日本語学校論集』6 東京外国語大学附属日本語学校  
川口義一(1982)「日本語文型の構文論」『語学教育論集』1 早稲田大学語学教育研究所  
川口義一(1986)「中級教科書の語彙・文型」『講座日本語教育』22 早稲田大学日本語研究教育センター  
川瀬生郎(1979)「日本語教育初級段階における指導内容 主な文型および文法事項について」『日本語学校論集』6 東京外国語大学附属日本語学校  
川本 喬(1985)「文型練習について」『講座日本語教育』21 早稲田大学日本語研究教育センター  
来嶋洋美他(1994)「中級文型の格付けの試み——既刊教科書における頻度調査に基づいて」『日本語国際センター紀要』4  
北條淳子(1975)「否定の語と修飾節文型」『講座日本語教育』11 早稲田大学日本語研究教育センター

- 北條淳子(1979)「日本語中級教材における文型」『講座日本語教育』15  
早稲田大学日本語研究教育センター
- 北條淳子(1985)「初級における文型とその指導」『講座日本語教育』  
21 早稲田大学日本語研究教育センター
- 黒田 巍(1963)「外国語教育に於ける文型練習の意義」『日本語教育』  
2 日本語教育学会
- 国立国語研究所(1960)『話しことばの文型1』 秀英出版
- 国立国語研究所(1963)『話しことばの文型2』 秀英出版
- 阪田雪子(1977)「日本語の文の構造と文型指導」『講座日本語教育』  
13 明治書院
- 佐久間まゆみ(1986)「日本語表現文型」の諸問題」『日本語教育』59  
日本語教育学会
- 柴田俊造(1973)「基本文型の導入のあり方」『日本語教育』21 日本  
語教育学会
- 鈴木義昭(1986)「初級文型の日中対照——「は」と「が」をめぐって  
——」『講座日本語教育』22 早稲田大学日本語研究教育センター
- 青年文化協会(1942)『日本語基本文型』 国語文化研究所
- 関 正昭(1975)「文型をいかにとらえるか」『研修』177 海外技術者  
研修協会
- 田中 寛(1976)「接続詞」と基本文型」『研修』180 海外技術者研  
修協会
- 玉村文郎(1973)「文型・文法・文法用語をめぐって」『日本語教育』  
20 日本語教育学会
- 寺村秀夫(1989)「構造文型と表現文型」『講座日本語と日本語教育』  
13 明治書院
- 野田尚史(1986)「日本語教科書における文型の扱い」『日本語教育』  
59 日本語教育学会
- 堀口純子(1989)「文型による指導」『講座日本語と日本語教育』13 明  
治書院
- 正宗美根子(1985)「日本語教育における中級文型について」『日本語  
教育』55 日本語教育学会
- 松井利男(1963)「文型・基本文型——学習基本文型への試み」『講座  
現代語』1 明治書院

- 松井利男(1969)「文型概念」『月刊文法』2-1 明治書院
- 水谷 修(1977)「音声教育の問題点(6) 基本文型のアクセントと卓立(1)」『日本語教育研究』15 言語文化研究所
- 水谷 修(1977)「音声教育の問題点(7) 基本文型のアクセントと卓立(2)」『日本語教育研究』16 言語文化研究所
- 水谷 修(1978)「音声教育の問題点(8) 基本文型のアクセントと卓立(3)」『日本語教育研究』17 言語文化研究所
- 水谷 修(1979)「音声教育の問題点(9) 基本文型のアクセントと卓立(4)」『日本語教育研究』18 言語文化研究所
- 村崎恭子(1974)「基本文型について」『日本語学校論集』1 東京外国語大学附属日本語学校
- 森田良行(1975)「複文の文型練習——「たら」「て」を含む文型を中心に——」『講座日本語教育』11 早稲田大学日本語研究教育センター
- 森田良行(1976)「文型について」『講座日本語教育』12 早稲田大学日本語研究教育センター
- 山口 光(1984)「文型分類の原理」『日本語学』3-12 明治書院
- 山本 進(1989)「文型積み上げの中へコミュニケーションをまたくは」『簡約日本語への応援』『大阪外国語大学論集』1

## 1.1 「文型」という術語の出自

「文型」という術語は sentence pattern の訳語であり、元来は欧米の言語学で発生した概念だと思われる。しかし、本稿では原語にとられることなく、「文型」という語に独自の使用範囲があると仮定し、「文型」がどのようなものと考えられているか、整理していく。

1.2 で見ると、「文型」は観点によって様々な分類が可能である。純粹に理論的な研究が進められる一方で、特に教育という実用的見地からの整理が急がれた<sup>2)</sup>。「文型」の語は、一般に昭和15~16年頃から使われるようになったとされる。これは外国人に対する日本語教育の必要性から生まれた『日本語基本文型』(1942)の影響が大きいと思われる。現在の文型

2) 『国語学大辞典』(1980), 『日本語教育ハンドブック』(1990) などによる。

分類も、この文献に負うところが大きい。そのはしがきには、「(注：日本語の用例を示すためには) 我国では未開拓ではあるが、広く表現の型というものを調査して、その上に立つのでなければならぬ」と、「文型」研究の抱負が述べられている。

さらに第二次世界大戦において、東南アジア方面で日本語教育の需要が高まったことから、日本語における基本文型を定め、教育に活用しようとする動きが広まったものと思われる。

## 1.2 「文型」の定義・種類

研究論文については、タイトルに「文型」の語があっても、「文型」とは何かを正面から規定しているものは少なく、「文型」に言及したわずかな部分をクローズアップしてとりあげるのは、論者の意図に反するかもしれない。本稿ではできるだけ主観を交えず、記述から推し量れる範囲で論者らの「文型」に対する考えを紹介していきたい<sup>3)</sup>。

### a) 「文型」定義の姿勢——単一の視点と複数の視点

文の型という時の「型」の捉えかたについては、ある程度考えが一定しており、次のような記述がいくつかの文献に見られる。

「個々の具体的な文表現から抽出した各種の文の形式・類型」(『日本文法大事典』1972)、「文型とは、個々の具体的な文ではなく、それから抽象した一般的な文の形とでもいえばよいであろう。」(『日本語教育事典』1982)。また、「『文型』における『型』とは、一定の枠内にはめられた形ということの意味し、一般には『鑄型的文型』として使用されている。」(関1975)という考えも、かなり普及していると思われる。

しかし、「文型」の具体的な姿をどう記述するかとなると難しい。「明解な解答がなかなか得られないというのが実状」(関1975)、「何を文型と考えるかについて、研究者の間で考え方は必ずしも同じではない。」(国立国

---

3) 意味文型、統語文型については、実用文法より理論文法の意味合いが強いので、本稿ではとりあげなかった。

語研究所 1960) といわれるとおりである。調査の結果、「文型」の定義の姿勢は大きく二つに分けることができる。一つは、“「文型」とはこういうものである”と「文型」を一般化するもの、もう一つは複数の観点から「文型」を規定するものである。

「文型」を一般化する定義としては、「文をなすための語の配置形式を文型という。」(『国語学研究事典』1977)、「構文要素の配置形式を述べたものが文型」(『国語学大辞典』1980)、「文型というのは学習者が外国語を習うときに与えられる基本的な文の型である。」(北條 1975)、「その語を使っているまとまりのあるひとつの文形式が形づくられるもの、基本となる文の骨格ということ」(北條 1979)、というものがそうである。

これに対し、「文型」の定義や内容は必ずしも一つではないという考え方があられる。『日本語教育ハンドブック』(1990)では、「文型とは、何らかの観点から文を分類したときの各類型、したがって文の種類と同じこととなる。」と述べている。山口(1984)にも同様の記述がある。

代表的なものは、「文の構造に関する文型」と、「表現意図に関する文型」の二分類(阪田 1989, 『日本文法辞典』(1981), 『日本語教育ハンドブック』(1990) など)、あるいは (1) 文の構造に関する文型 (2) 表現による文型 (3) 語の運用に関する文型 (『国語学辞典』1955, 『新版日本語学辞典』1994 など)の三分類である。後者の三分類は特に多くの辞典に記載されているが、これは青年文化協会の『日本語基本文型』に端を発するものと思われる。いずれにしろ、これは分析の観点による分類である。

#### b) 目的別の「文型」——「実用文型」と「理論文型」

これとは別に、分析の目的によって「文型」の名称が区別されることがあられる。『語学学習に役立つために、具体的な文型を研究する立場』と『言語の体系を明らかにするための一環としてなされる文法論としての立場』(関 1975, 他に国研 1960 など)がそれである<sup>4)</sup>。このような立場につ

4) ただし、次のような見方もある。「(注: 文型研究を) 具体的な文の型をかかげて言語学習に役立つことを目標とする教育的立場の文型研究と、ことばの体系

いて、前者の「文型」を特に「実用文型」、後者の「文型」を「理論文型」と呼ぶことがある。ここでいう実用とは、具体的にはコミュニケーションに役立つという意味で、研究的理論に裏づけられた「文型」に対峙するものと考えられる。例えば、「日本語教育の現場では、ドレガ本デスカ：本ハドレデスカのような、例文中心の実用文型が活発に用いられる。」(『日本語百科大辞典』1988)といった記述がみられる。もちろん、実用文型といえども、理論文型とまったくかわりのないところで設定されるわけではないが、実用文型を定めるにあたって特に留意すべき点も指摘されている。「(注：日本語教育においては)できるだけ具体的な文法項目をできるだけ残りなく拾い上げて、それを文型としてまとめあげればよいと思う。(略)つまり助詞・助動詞などのいわゆる文法語はもちろん、動詞・形容詞・名詞・副詞なども基本的なものを取り上げ、文構造の中でとらえ文型として提示するのである。」(『日本語教育辞典』1982)といった考えがそれにあたるだろう。

### c) 日本語教育における「文型」——「構造文型」と「表現文型」

日本語教育においては、a) の「文型」の規定のうち、「文型」を「構造文型」と「表現文型」に分ける考え方がかなり普及しているようである。日本語教育で両者をどのように取り扱うかについては、寺村(1989)で枠組みが示されている。

「構造文型」とは文の構成要素である語の配置形式のことで、例えば次のように説明されている。「文の構造の面における文型として、最も一般的なのは、主述関係のあり方に基づく、単文・複文・重文の別であり、また、『何がどうする、何がどんなだ、何が何だ』など、述語のあり方に

---

を明らかにすることをおもな目標とする文法論としての文型研究とに分けることはできるけれどもいずれも文の類型に関する文法的研究であるといえる。」(国立国語研究所 1960)



よる文型の類別も、広く知られている」(『日本文法辞典』1981)<sup>5)</sup>。

これに対し、「表現文型」は表現意図をより重視した文の型のことで、一般に文末形式に注目する<sup>6)</sup>。次のような観点から規定がなされる。「(注:決まった型や数はないが)初級学習で習得した『構造(構文)文型』や文法的知識を生かし、実際に専門書や一般書・新聞・雑誌が読め、日本の大学・大学院での勉学が可能になるまでの日本語力を能率よく身に付けさせる中級文型」、「表現意図による文型」というのに近いが、単なる文末表現のみではなく、語彙的な意味内容や文章表現の方法といったものまでを含む広い概念」(佐久間 1986)。「文表現の面から考えられる文型は、断定・否定・疑問・感動など種々の表現にみられる文の、文末形式などに着目して、類別される。これは、表現文型とも呼ばれるが、一般には『文の意味的分類』あるいは『文の表現上の種類』として扱われることが多い。」(『日本文法辞典』1981)。

さらに、「『文型』として文の形にこだわるよりは、『表現類型』という項目で広い機能の言語形式を拾うほうが望ましい。」(佐久間 1986)というように、「文型」を「表現文型」の視野でとらえるべきという主張もある。

d) 「基本文型」

語学学習に関連の深い「文型」として「基本文型」がある。「(注:日本語教育の)入門期には『基本文型の指導』を行うとよく言われるが、何を基本的な文型として取り出すかもまた重要な問題である。」(阪田 1977)との指摘がある。「基本文型」には、次のような考え方が示されている。「言語

---

5) 日本語教育における「文型」を構造文型とするものもある。「文型とは文法を文の形で提示したものであり、日本語教育では一般に述語と補語との格関係のあり方に従って分類、配列した構造文型を指す。」(『新版日本語学辞典』1994)

6) 「表現文型」という語を用いなくとも、「文型」の設定にあたって文末形式に着目することがある。「文型は文の骨格をなすもので、文の主要部分である文末、句末に現れるものがそれに当たる」(北條 1979)。「日本語の文の構造の特徴として述語が文末に位置することがあげられる。文型を考える場合に文末部分を中心としてみていく必要はこの点からも言うことができる。」(阪田 1977)

の表層構造を基にした文のパターン、つまり表面に現われる形式を重視して定める文型——これはテキスト作成等における語学教育に直接役立つものである」(村崎 1974)<sup>7)</sup>。

「基本文型」の備えるべき条件として次のものをあげる文献がある。「(1) 使用頻度が高い (2) 習得しやすい (3) 命題叙述の根本をなす (4) 各種の変容に対して基準・標準となる (5) それだけで間に合わせられる」(『日本文法辞典』1981, 参考文献: 国立国語研究所(1960, 1963)。

#### e) 総合文型

「文型」を構成するいくつかの観点を整理した上で、それらを統合した「総合文型」を考える立場がある。「話者が文を作る時の意識は、全体ひと流れのものであるから、文型も全体一つのものとして、総合文型を立てようという考えも、当然成り立つ。」(『国語学大辞典』1980) また、『話しことばの文型(1)(2)』(国立国語研究所 1960・1963)には表現意図・構文・イントネーションを総合して考える文型(「総合的文型」)の試みがある。日本語教育の指導面でも、「(注:『文の構造に関する文型』と『表現意図に関する文型』)の二つの文型のとらえ方は互に重なり合うものであり、文型によって日本語を指導する場合には、これを総合的にとらえていかなければならない。」(阪田 1977)との指摘がある。

次の引用は「文型」の特徴を列挙したものである。「総合文型」という用語こそ登場しないものの、(3)のとらえかたは「総合文型」に相当するとみて良いだろう。

「(1) 言表の意図に従って成立している表現の類型であること (2) それは文法に支えられる社会的、習慣的な表現の型であり、ことばの使い方のわく組みであること (3) その文型は表現意図、構文、イントネーションの総合的な現われであること (4) したがって表面的、形式的な単なる型ではなく、認識や思考に裏づけられていること (5) 文型は、各種の具体

7) 『日本国語大辞典』(1972)にも項目がある。

的な表現から抽象してとらえ、図式化、体系化して表わすことができること (6) 文型は、基本文型そのものではない(注: 派生文型への変形可能である)」(松井 1969)<sup>8)</sup>。

松井の(4)と同様の記述に、「文型は文の外形的な輪郭ではなく、全一的なものとして一つの表現を形成する発想の軌跡である。」(森田 1975)がある。

### 1.3 日本語教育における「文型」

ここでは、日本語教育において「文型」がどのようなものとして位置づけられ、どのように扱われるべきものと考えられているのか、論考を通じて概観する。

#### 1.3.1 日本語教育における「文型」教育のあり方

日本語教育における教科書が、「文型」中心の構成となっていることは、以下のような記述から推察される。

「教材はなるべく対話形式をとり、その中に文型が折り込まれている、そういうものがのぞましいと云える。」(黒田 1963)

「ひとむかし前に作られた教科書は、文型に忠実な規則派が多く、今でもその流れは続いている。」「日本語の教科書、とくに初級教科書にとつて、『文型』は教科書の骨組みである。」(野田 1986)

「文型による指導を前提として編まれた各教科書も、それぞれの編集者の立場や対象となる学習者の目的のちがいによって、文型の選び方、特にその配列の順序はおのずから異なっている。」(阪田 1977)

「現在使用されている初級の日本語教科書のほとんどは文型を中心として各課が配列され、文型の習得とその応用力の養成が学習の中心課題である。」(堀口 1989)

---

8) このほか、いわゆる理論文型の方でも総合文型の試みはある。『日本語百科大辞典』(1988)は、三上章の「基本文型論」、林四郎の「文の姿勢」などを総合文型として紹介している。

日本語教科書が文型中心に編まれていることを受け、日本語教育では文型練習が主流となっているという見方が多い。

「現在数ある日本語教科書のそのほとんど(略)が、「文型」を中心に作られていることから、『文型練習』が、いかに重要視されているかがうかがえる。」(関 1975)

「日本語教育では、文の規則を教えるために文型をとり出して練習を行なう方法が多くとられている。」(正宗 1984)

さらに、「文型教育は語彙教育と並んで、文の構造理解と文の生成能力の獲得をめざして行われ、特に初級教育では中心的な位置を占めるものである。」(『新版日本語学辞典』1994)として、文型練習を重要視する文型教を初級教育の中心であるとする記述もあった。

「文型」そのものの是非に言及した文献もある。次にあげるものは、「文型」を学習項目の中心とみなし、「文型」の意義を認める意見である。

「コミュニケーション上の機能を担うのは文型であり、また心理面や学習過程を重視するといっても学習項目の中心となるのは言語形式であるから、文型を否定することはできない。」(堀口 1989)

文型指導のもつ意味を生かすために、教科書でとりあげる表現は「文型」の枠内で処理可能であることが必要だとする提案がある。

「教科書でもできうる限り現実の言語場面で一般に使われる自然な表現を取り上げて指導することが望まれるのではあるが、そこで提示されている文型の枠の中で処理できるものでなければ、いろいろな表現形式がばらばらに提出されることになり文型指導の意味が失われてしまう。」(阪田 1977)

そこでは、「文型」と現実の言語表現はどのような関係にあるのだろうか。次の記述が参考になる。

「基本的な文型をだんだんと発展させて行くと、実社会に役に立つ外国語教育ができてくる。」(黒田 1963)

「ことばは、それぞれが非常に微妙な、有機的ともいえる結ばれ方をし

ており、それらを文法とか文型とかいう形で切りとることは不合理ではあるけれども、外国語学習という特殊な場の中ではごく基本的なところで文型を提示し、学習させてから、次のより複雑な提示の段階へと進んで、そして最終的には微妙な意味のニュアンスを知り、用法も複雑なことばとことばの集まりとしての一国語にゆきつくことになる。」(北條 1975)

そして、「文型」の導入方法については、以下のような考え方が一般のようである。

「文型教育というのは、現実には無限に多様な言語表現を、有限の、たとえば五〇なり一〇〇なりの「型(パターン)」に整理し、それを通常は簡単なものから複雑なものへの順序に並べ、それぞれの型に適当な語彙をはめこみ、入れ替え、派生的に変化させたり組み合わせたりして、次第に複雑な表現に導いていく方式である。」(寺村 1989)

「文型指導とはごく基本的なものから複雑な段階へと一つ一つ積み重ねていくものでなければならない。学習者はそのような段階を経て微妙なニュアンスのちがいを会得し、それらの文型の集まりとしての日本語を話し聞くことが、あるいは読み書きすることができるようになっていくのである。」(阪田 1977)

「文型教育は(略)文型の導入と語彙の代入による文の生成、および文の変形、拡大などの練習とから成り立つ。」(『新版日本語学辞典』1994)

つまり、文型教育とは、基本的なものから複雑なものへの積み重ねであり、最終的にその言語を習得する方向に導く方法であるということであろう。

さらに、文型練習の具体的なあり方について、また注意すべき点についての記述をみておく。

「文型練習は文法学習であり、語意の理解であり、語の使い方の練習であり、文そのものの表現・理解力を養う訓練である」「文型練習を正しい日本語使用の縮図と考えると、その練習は、LLでの拡張練習に見られるような、形式的な文作り技術の訓練で終始してはならない。具体的な対人

関係と場面設定のもとに、話題を限定した練習を進めなければならない。」  
(森田 1975)

「あらゆる文型練習に共通して言えることは、文型の形式と意味とを教えるということである。そのどちらを欠いても完全な練習にならない。意味の理解はどのような場面状況でその文型が用いられるかの理解につながることである。」「最近の文型練習法は、(イ) 習慣形成による習得でなく、理性主義に基づいた学習であること、(ロ) 口頭だけでなく、視覚その他の感覚も利用すること、(ハ) 意味と形式の理解をし、それを応用できるようにする形をとること、の傾向がある。」「文型練習だけでなく、ダイアログや宿題、Reading Comprehension, Listening Comprehension なども含めて、トータルで文型を定着させるように謀る傾向にある。」(川本 1985)

「文型練習は学習者が練習する文型の文や語の意味を十分に理解していることが前提として必要であり、機械的なおうむ返しになってはならない。」(北條 1985)

「(注: オーディオ・リンガル・メソッドにおける文型練習の目的は) 目標とする文型を正しい発音、イントネーションですらすら言えるようにすることである。しかし、このような練習のみでは、ある場面でどのような文型を使うべきかを学習することはできないのであるから、現実的なコミュニケーションの能力を養うためには、さらにほかの練習方法(場面にそくした発話を行う練習)が必要である。」(『日本語教育入門用語集』1989)

文型練習は以上のような記述から、その望まれるあり方というものがかなり明確にされている。最後に、文型指導=文法指導という考え方について紹介する。

「文型の枠をなしている文法語の完全な学習は最も大切である。」(黒田 1963)

「(注: ある場面で用いられるにふさわしい) 日本語の表現形式を指導するという(一般に文型指導と呼ばれる)は、同時に経験的に日本語の文

の構造すなわち日本語の文法体系を習得させることである。」「特に入門期にあつては、文型指導によって同時に文法の指導が行われる」(阪田 1977)

### 1.3.2 初級・中級における「文型」

#### a) 初級における「文型」

野田(1986)では、初級教科書の「文型」に対する基本思想を四項目に分類している。

##### 1. 規則派と自然派

本文を文型に忠実なものにするか、自然な日本語にするか。

##### 2. 文章派と会話派

本文を書きことばにするか、話しことばにするか。

##### 3. 文型派と場面派

各課を文型を中心に組み立てていくか、場面中心に組み立てていくか。

##### 4. 集中派と分散派

類似した文型を同時に出すか、離して出すか。

さらに野田は、初級教科書において、「文型」を含めた観点から改善すべき点を今後の課題としてあげている。要約すると、次のような内容である。

「今後、日本語をコミュニケーションの手段と考え、生きたことばの使い方を重視した自然派・会話派・場面派の教科書が、初級教科書の主流になっていくものと思われる。このタイプの教科書の改善すべき点についてあげる。1. 学習者を限定しない工夫を考えなければならない。2. 文型と表現を分けて扱ったり、関連した文型をまとめて整理するページを設けるなどの工夫をして、文法に弱い教科書にならないようにする。3. 使用文型と理解文型を区別する必要がある。」

また、堀口(1989)には、オーディオ・リンガルや TPR, コミュニカティブ・アプローチなどの教授法における「文型」の扱われ方に関してつぎのような記述がある。要点をまとめて示す。

「オーディオ・リンガル；「文型」積み上げ方式で、「文型」がシラバスの基本となり、「文型」練習が教室活動の中心になる。TPR；シラバスの基本になっているのは「文型」である。コミュニケーション・アプローチ；「文型」を構造的に扱うだけでなく、その「文型」のコミュニケーション上の機能も導入している。」

#### b) 中級における「文型」

初級と中級の「文型」がどのような点で異なるかについては、

「文の論理的な骨組をあらわす文型を扱うのが初級、文に情意的な内容をもたせる文型を扱うのが中級といえる。」(正宗 1984)という記述がある。一方、初級文型と中級文型の境界線を曖昧であるとする指摘もある。

『中級の文型』というけれども、実際にどこまでをそう名づけるかははっきりしていない。「新出文型といっても初級の文型の形を少し変えたもの、つまり初級文型のバリエーションともいえるべきものが多い」(北條 1979)

また、中級教科書に対する留意点として、次のような意見がある。

「中級教科書は初級教科書と異なり、文型を中心に作っていないものが多い」「学習の目的にあわせてさまざまな教科書があつてしかるべきである。」「文章・会話の種類によってよく使われる文型が異なるという点への配慮(注：が心要)」「理解文型と使用文型を区別すること」(野田 1986)

#### 1.4 まとめ

以上、研究論文・辞典類において、「文型」という術語がどのように扱われてきているのかを見てきた。今回の調査では、あくまで「文型」という語の出現にこだわったため、一般には「文型」のことに言及していると思われる事柄でも、「文型」の語が見あたらない場合はとりあげなかった。これは、本調査が「文型」とはそもそも何かという疑問から始まったものであり、その記述内容が「文型」のことであるか否かの判断を調査結果を待たずに行うことは、調査の趣旨に反すると考えるからである。



調査であつかった文献類は発表時期・刊行時期にある程度幅があるものの、「文型」をどのようなものかという点では、それほど変化していないという印象を受ける。表現意図や表現文型などという考え方は、比較的最近のものと思われがちであるが、1・1で触れた『日本語基本文型』(1942)で、すでに「文型」を3種に分ける試みが示されている。教育において「文型」をどのように導入するのか、文型学習にどのように応用性をもたせるのかなど、具体的な教授法において「文型」の位置づけが変遷する可能性はあるものの、「文型」を重視する姿勢は古くから存在し、今日にいたるまでほぼ一貫した流れがあるとみてよいだろう。

「文型」について我々が認識を高めることは、日本語教育を行ううえでも重要なことである。「文型」についての議論は、抽象的な意見のやりとりにとどまらず、日本語教育のあり方そのものの問題点をいくつも浮き彫りにするものである。これは、前稿「「文型」をめぐる問題点」で指摘したとおりである。しかしながら、「文型」の定義や位置づけは理論文法の領域と考えられるためか、日本語教育関連の文献では、それほど多くの記述を目にすることはできなかった。

肯定的であれ否定的であれ、日本語教育において「文型」が大きな位置を占めていることは確かである。この現状をふまえ、「文型」とは何であるのか、なぜ「文型」を設定する必要があるのか、日常言語から「文型」を抽出する基準は何であるのか、「文型」をどのように導入していけばよいのかといった諸問題について、さらに活発な議論が望まれるところである。

## 2 日本語教科書における術語「文型」の扱われ方

### 2.1 調査の対象と方法

日本語の教科書において「文型」という術語がどのように扱われているかを調査した。

国内で出版された日本語教科書類を『日本語教材データファイル日本語教科書』(1992 凡人社)、『日本語教材概説』(1992 北星堂書店)、『日本語教

材リスト』(1995 凡人社)からリストアップして調査対象とする128の教科書を選定した。教科書の選定にあたっては、「話す・聞く・書く・読む」の四技能の習得を目的とする総合型教科書を中心にして、「会話」「聴解」「読解」「作文」など個別的な技能向上を目的とする教材類まで含めることとした。レベルは、初級のものから上級のものまで含めた。また、教科書などの刊行年度は1950年初版のものから1994年刊行のものまで、およそ45年間に及ぶものとなった。

これらを対象に、「前文」と「本文」において「文型」という術語が明示的に使用されているか、その有無を調査した。(なお、「文の型」「パターン」、英語での記述など、「文型」と明示的に示されていない場合は、使用されていないものとして集計した。)ここでいう「前文」とは前書きをはじめ、構成や使用法の説明なども含めたものを意味している。「前文」の部分には、教科書作成者の作成意図が示されている。そこに「文型」という術語が出現するかを調べることによって、作成者の「文型」に対する意識を捉えることが可能になると思われる。「本文」とは各課の内容全体を表す。その構成や説明文において「文型」という術語が出現するかを調査することによって、作成者の「文型」へと意識とは別に、学習者に対して「文型」という術語を使つての文法項目の提示が積極的になされているかを明らかにすることができると考えた。

選定した教科書について、初版年度、「前文」と「本文」における術語「文型」の出現の有無、初級・中級など教科書のレベル、総合型教科書か「会話」「読解」など技能別教科書かの区別を調査し、これらの情報を盛り込んだデータベースを作成した。そのデータベースをもとに作成した教科書の一覧表及び「文型集計表」を次に示す。

## 2.2 調査対象教科書一覧表について

一覧表は、調査対象となった128の教科書を50音順に示したものである。分冊になった教科書は1巻ごと分けて表示した。「レベル」は、参考

とした教材リストのなどレベル分けに基づいたものである。「初・中・上」は「初級・中級・上級」を表す、「初中」「中上」などはそれぞれ「初級・中級」「中級・上級」を表している。「技能」は、「会話・聴解・読解・作文」などの技能の習得を目的とする教科書かを示している。「総合」は、複数の技能の習得や向上を目的とする教科書を表す。「前」は「前文」、「本」は「本文」を意味する。それぞれにおいて「文型」という術語が明示されている場合は「Y」、明示されていない場合は「N」で示した。また、明示されてはいるが、それが「文型」に対して否定的な見解を述べる文脈において使用されたものである場合は「X」で表示した。「初版」の数字はその教科書の初版の年度を示している。

### 2.3 文型集計表について

今回の調査では、その考察を5種類の集計表を用いて行った。以下は、それぞれの集計表の解説と、表の中にある記号などの解説である。

#### • 文型集計表 1

調査対象となった教科書すべてに関して、技能別の「文型」の用いられかたと、レベルの関係に注目して集計した表である。

#### • 文型集計表 2

文型集計表 1 と基本的には同じであるが、調査対象の教科書で、シリーズで出版されているもの、分冊であるものを1冊として集計したものである。Y と N に関しては、第1巻の記述で集計してある。

#### • 文型集計表 3

調査対象となった教科書すべてを、レベル別に、「文型」の用いられかたと年代の関係に注目して集計したものである。

#### • 文型集計表 4

調査対象となった教科書すべてを、技能別に、「文型」の用いられかたと年代の関係に注目して集計したものである。

• 文型集計表 5

調査対象となった教科書すべてを、技能別に、年代とレベルの関係に注目して集計したもの。年代別の出版傾向を示す。

表の中の略号等について

- YY : 教科書の前文、本文共に「文型」の記述が見られるもの
- YN : 教科書の前文のみに「文型」の記述があり、本文中には記述が見られないもの
- NY : 教科書の前文には「文型」の記述が見られず、本文中のみに記述があるもの
- NN : 教科書の前文、本文共に「文型」の記述が見られないもの
- Yあり : YY, YN, NY の合計の数
- Y% : 合計に占める「Yあり」の割合を表示したもの
- 初級 : 初級教科書
- 中級 : 中級教科書
- 上級 : 上級教科書
- 初～中級 : 初級から中級の学習者を対象にした教科書
- 中～上級 : 中級から上級の学習者を対象にした教科書
- 50～54 (例) : 1950年から1954年までに出版されたもの
- 50年代 (例) : 1959年から1959年までに出版されたもの
- 3初級 (例) : 初級と初・中級の合計

NO	書名	レベル	技能	前	本	編	発行機関／著者
1	朝日新聞の声を聴く	中上	聴解	N	Y	88	砂川裕一他著
2	いきいき日本語 1	初	総合	Y	N	89	WIZ外語学院
3	いきいき日本語 2	初	総合	Y	N	89	WIZ外語学院
4	生きた日本語第一巻	上	会話	N	N	79	青山スクールオブジャパニーズ
5	生きた日本語第二巻	上	会話	N	N	80	青山スクールオブジャパニーズ
6	生きた日本語第三巻	上	会話	N	N	81	青山スクールオブジャパニーズ
7	生きた日本語第四巻	上	会話	N	N	81	青山スクールオブジャパニーズ
8	インタビューで学ぶ日本語	中上	聴解	N	N	91	堀歌子他著
9	絵とタスクで学ぶにほんご	初中	聴解	N	N	88	村野良子他著
10	外国学生用日本語教科書初級	初	総合	Y	N	67	早稲田大学日本語研究教育センター
11	外国学生用日本語教科書上級 I	上	読解	N	N	88	早稲田大学日本語研究教育センター
12	外国学生用日本語教科書上級 II	上	読解	N	N	88	早稲田大学日本語研究教育センター
13	技術研修のための日本語初級 1	初	総合	Y	N	84	国際協力事業団
14	技術研修のための日本語初級 2	初	総合	Y	N	84	国際協力事業団
15	技術研修のための日本語初級 3	初	総合	Y	N	84	国際協力事業団
16	技術研修のための日本語中級 4	中	総合	Y	N	85	国際協力事業団
17	技術研修のための日本語中級 5	中	総合	Y	N	85	国際協力事業団
18	技術研修のための日本語中級 6	中	総合	Y	N	86	国際協力事業団
19	技術研修生のためのにほんご100時間	初	総合	N	N	92	TOPラングージング日本語研究会
20	現代日本語	初	総合	Y	N	81	亜細亜大学
21	現代日本語コース中級 I	中	総合	N	N	88	名古屋大学出版会
22	現代日本語コース中級 II	中	総合	N	N	90	名古屋大学出版会
23	現代日本語初級総合講座発展編	初	総合	N	Y	93	水谷信子他著
24	講義を聞く技術	中上	聴解	N	N	88	産能短大日本語教育研究室
25	コンテンツポラリー日本語中級	中	読解	Y	N	89	奥村訓代他著
26	再訂標準日本語読本巻一	初	総合	N	N	50	長沼直兄著
27	再訂標準日本語読本巻二	初中	総合	N	N	50	長沼直兄著
28	再訂標準日本語読本巻三	中上	総合	N	N	50	長沼直兄著
29	再訂標準日本語読本巻四	上	総合	N	N	50	長沼直兄著
30	再訂標準日本語読本巻五	上	総合	N	N	51	長沼直兄著
31	自然な日本語	中	会話	N	N	84	桜井晴美著
32	自然な日本語Ⅱ	中上	会話	N	N	91	桜井晴美著
33	実践にほんごの作文	中上	作文	N	N	86	佐藤政光他著
34	実用日本語 1	初	総合	N	N	84	新宿日本語学校
35	実用日本語 2-1	初	総合	N	N	86	新宿日本語学校
36	実用日本語 2-2	初	総合	N	N	81	新宿日本語学校
37	実用日本語 3	初中	総合	N	N	91	新宿日本語学校
38	実践力のつく日本語学習－インビデュアル編－	中上	会話	Y	Y	92	谷口聡人他著
39	実践力のつく日本語学習－アソート編－	中上	総合	Y	Y	93	谷口聡人他著
40	上級日本語読本	上	読解	N	N	74	坂坂元他著
41	上級日本語：異文化間みるコミュニケーション	上	総合	N	N	90	日暮嘉子著
42	初級日本語	初	総合	Y	Y	90	東京外国語大学付属日本語学校
43	初級日本語れんじゅう	初	会話	Y	Y	90	東京外国語大学付属日本語学校

NO	書名	レベル	技能	前	本	版	発行機関／著者
44	新日本語の基礎Ⅰ(漢字仮名交じり版)	初	総合	Y	Y	90	海外技術者研修協会
45	新日本語の基礎Ⅰ(ローマ字版)	初	総合	Y	Y	90	海外技術者研修協会
46	新日本語の基礎2	初	総合	Y	Y	93	海外技術者研修協会
47	総合日本語中級	中	総合	N	Y	87	水谷信子著
48	総合日本語中級前期	中	総合	Y	Y	89	水谷信子著
49	総合日本語初級から中級へ	初中	総合	N	Y	90	水谷信子著
50	統「読み」への挑戦	中	読解	Y	N	92	伊藤博子他著
51	大学生のための日本語	上	総合	N	N	90	産能短大日本語教育研究室
52	正しい日本語	初	総合	Y	N	73	国際学友会
53	楽しく聞こうⅠ	初	聴解	N	N	92	文化外国語専門学校
54	楽しく聞こうⅡ	初	聴解	N	N	92	文化外国語専門学校
55	たのしく読める「日本のくらし12か月」	中	読解	N	N	92	国際日本語研究所
56	タスクによる楽しい日本語の読み	初	読解	N	N	90	山田あき子著
57	中級からの日本語-読解中心-	中	読解	N	N	90	池田重隆修
58	中級から学ぶ日本語-読解中心-	中	読解	Y	N	91	松田浩志他著
59	中級長文読解練習日本を読む	中	読解	N	N	90	氏家研一著
60	中級日本語	中	総合	Y	Y	68	大阪外国語大学留学生別科
61	中級日本語	中	総合	Y	Y	94	東京外大留学生日本語教育センター
62	中級日本語読解練習日本語いろいろ1	中	読解	Y	N	89	杉田恵美子他著
63	中級日本語読解練習日本語いろいろ2	中上	読解	Y	N	91	杉田恵美子他著
64	中国からの帰国者のための生活日本語	初	総合	N	N	83	文化庁
65	中国からの帰国者のための生活日本語Ⅱ	初	総合	N	N	85	文化庁
66	ちょっとひとこと	中	総合	Y	Y	83	佐々木倫子著
67	読解演習はじめての専門書	中	読解	N	N	87	山本一枝他著
68	読解20のテーマ	初	読解	Y	N	91	三井豊子他著
69	長沼・新現代日本語Ⅰ	初	総合	Y	N	88	言語文化研究所
70	長沼・新現代日本語Ⅱ	初	総合	Y	N	88	言語文化研究所
71	長沼・現代日本語Ⅰ	初	総合	Y	N	82	東京日本語学校
72	日本語表現文型中級Ⅰ	中	総合	Y	Y	83	筑波大学日本語教育研究室
73	日本語表現文型中級Ⅱ	中	総合	Y	Y	83	筑波大学日本語教育研究室
74	日本語を学ぶ人たちのための「日本語を楽しく読む本・中級」	中	読解	Y	Y	91	産能短大日本語教育研究室
75	日本語(にほんご／にっぽんご)	初	総合	N	Y	85	小出詞子著
76	日本語Ⅰ	初	総合	Y	N	75	国際学友会
77	日本語Ⅱ	中上	読解	Y	N	79	国際学友会
78	日本語会話中級Ⅰ	中	会話	Y	Y	93	高柳和子他著
79	日本語会話中級Ⅱ	中	会話	Y	Y	93	高柳和子他著
80	日本語作文Ⅰ	初中上	作文	Y	Y	88	C&P日本語教育・教材研究会
81	日本語作文Ⅱ	初中上	作文	Y	Y	88	C&P日本語教育・教材研究会
82	日本語初級Ⅰ	初	総合	Y	Y	91	東海大学留学生教育センター
83	日本語初歩	初	総合	Y	N	81	国際交流基金
84	日本語第一歩Ⅰ Compact Japanese	初	総合	N	N	88	富田隆行著
85	日本語第一歩Ⅱ	初	総合	N	N	88	富田隆行著
86	日本語中級Ⅰ	中	総合	N	N	79	東海大学留学生教育センター
87	日本語中級Ⅰ	中	総合	Y	Y	90	国際交流基金

NO	書名	レベル	技能	前	本	編	発行機関／著者
88	日本語中級読解入門	中	読解	Y	Y	91	日本語教育・教師協会
89	日本語中級読解	中	読解	Y	N	92	日本語教育・教師協会
90	日本語でビジネス会話初級編	初	会話	Y	N	89	日米会話学院
91	日本語でビジネス会話中級編	中	会話	X	N	87	日米会話学院
92	日本語で学ぶ日本経済入門	中上	読解	Y	Y	92	藤森三男他著
93	日本語読本 I	初	総合	N	N	54	国際学友会
94	日本語の基礎 I (漢字かなまじり版)	初	総合	Y	Y	74	海外技術者研修協会
95	日本語の基礎 I (ローマ字版)	初	総合	Y	Y	72	海外技術者研修協会
96	日本語の基礎 II (漢字かなまじり版)	初	総合	Y	Y	81	海外技術者研修協会
97	日本語の基礎 II (ローマ字版)	初	総合	Y	Y	81	海外技術者研修協会
98	日本語の新聞—今日の問題—	上	総合	N	N	85	伊藤哲子著
99	ニュースで学ぶ日本語	中上	聴解	N	N	86	堀歌子他著
100	はじめてのにほんご	初	総合	Y	N	90	片桐ユズル著
101	場面でおぼえる日本語	初	会話	Y	N	91	村崎恭子監修
102	文化初級日本語 I	初	総合	Y	N	87	文化外国語専門学校
103	文化初級日本語 II	初	総合	Y	N	87	文化外国語専門学校
104	文化中級日本語 I	中	総合	Y	Y	94	文化外国語専門学校
105	別科・日本語 I	初	総合	Y	Y	89	長崎総合科学大学
106	学びやすい日本語VOL. I	初中	総合	Y	Y	82	竹内博子著
107	学びやすい日本語VOL. II	初中	総合	Y	Y	82	竹内博子著
108	横山さんの日本語第1巻	初	総合	Y	N	89	横山信子著
109	横山さんの日本語第2巻	初	総合	Y	N	89	横山信子著
110	横山さんの日本語第3巻	初	総合	Y	N	89	横山信子著
111	横山さんの日本語第4巻	初	総合	Y	N	89	横山信子著
112	横山さんの日本語第5巻	初	総合	Y	N	89	横山信子著
113	横山さんの日本語第6巻	初	会話	N	N	89	横山信子著
114	よみかた	初	読解	Y	N	59	国際学友会
115	読みへの挑戦	中	読解	Y	N	92	伊藤博子他
116	リーとクラークの冒険	中	会話	N	N	88	山上明他
117	留学生の日本語会話	初中	会話	Y	N	90	国際学友会
118	ロールプレイで学ぶ会話(1)こんなとき何と言いますか。	中上	会話	X	N	87	日本語教授法研究会
119	ロールプレイで学ぶ会話(2)こんなとき何と言いますか。	中上	会話	X	N	88	日本語教授法研究会
120	わかる日本語1巻	初	総合	Y	N	76	今井幹夫著
121	わかる日本語2巻	中	総合	N	N	77	今井幹夫著
122	わかる日本語3巻	中	総合	N	N	78	今井幹夫著
123	わかる日本語4巻	上	総合	N	N	78	今井幹夫著
124	わかる日本語5巻	上	総合	N	N	78	今井幹夫著
125	COMMUNICATION JAPANESE STYLE I	初	総合	Y	Y	87	言語文化研究所付属日本語学校
126	COMMUNICATION JAPANESE STYLE II	初	総合	Y	Y	87	言語文化研究所付属日本語学校
127	Modern Japanese for university Student, Part2	中	総合	Y	N	66	国際基督教大学日本語科
128	Modern Japanese for university Student, Part3	上	総合	N	N	68	国際基督教大学日本語科

文型集計表 1

技能別集計

a	全体	初級	初～中級	中級	中～上級	上級	合計	3初級	3中級	3上級
YY	15	3	11	4	0	33	18	15	0	
YN	26	1	10	2	0	39	27	12	0	
NY	1	1	1	1	0	4	2	2	0	
NN	14	3	11	6	15	49	17	17	15	
XN	0	0	1	2	0	3	0	3	0	
合計	56	8	34	15	15	128	64	49	15	
Y有り	42	5	22	7	0	76	47	29	0	
Y%	0.75	0.625	0.6471	0.4667	0	0.5938	0.7344	0.5918	0	

b	総合	初級	初～中級	中級	中～上級	上級	合計	3初級	3中級	3上級
YY	14	2	7	1	0	24	16	8	0	
YN	22	0	4	0	0	26	22	4	0	
NY	1	1	1	0	0	3	2	1	0	
NN	10	2	5	1	8	26	12	6	8	
XN	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
合計	47	5	17	2	8	79	52	19	8	
Y有り	37	3	12	1	0	53	40	13	0	
Y%	0.7872	0.6	0.7059	0.5	0	0.6709	0.7692	0.6842	0	

c	会話	初級	初～中級	中級	中～上級	上級	合計	3初級	3中級	3上級
YY	1	0	2	1	0	4	1	3	0	
YN	2	1	0	0	0	3	3	0	0	
NY	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
NN	1	0	2	1	4	8	1	3	4	
XN	0	0	1	2	0	3	0	3	0	
合計	4	1	5	4	4	18	5	9	4	
Y有り	3	1	2	1	0	7	4	3	0	
Y%	0.75	1	0.4	0.25	0	0.3889	0.8	0.3333	0	

d	聴解	初級	初～中級	中級	中～上級	上級	合計	3初級	3中級	3上級
YY	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
YN	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
NY	0	0	0	1	0	1	0	1	0	
NN	2	1	0	3	0	6	3	3	0	
XN	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
合計	2	1	0	4	0	7	3	4	0	
Y有り	0	0	0	1	0	1	0	1	0	
Y%	0	0	0	0.25	0	0.1429	0	0.25	0	

e	読解	初級	初～中級	中級	中～上級	上級	合計	3初級	3中級	3上級
YY	0	0	2	1	0	3	0	3	0	
YN	2	0	6	2	0	10	2	8	0	
NY	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
NN	1	0	4	0	3	8	1	4	3	
XN	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
合計	3	0	12	3	3	21	3	15	3	
Y有り	2	0	8	3	0	13	2	11	0	
Y%	0.6667	0	0.6667	1	0	0.619	0.6667	0.7333	0	

f	作文	初級	初～中級	中級	中～上級	上級	合計	3初級	3中級	3上級
YY	0	1	0	1	0	2	1	1	0	
YN	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
NY	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
NN	0	0	0	1	0	1	0	1	0	
XN	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
合計	0	1	0	2	0	3	1	2	0	
Y有り	0	1	0	1	0	2	1	1	0	
Y%	0	1	0	0.5	0	0.6667	1	0.5	0	



文型集計表 2

技能別集計

a	全体	初級	初～中級	中級	中～上級	上級	合計	3初級	3中級	3上級
YY	9	2	11	3	0	25	11	14	0	
YN	17	1	6	0	0	24	18	6	0	
NY	1	1	1	1	0	4	2	2	0	
NN	9	1	8	4	6	28	10	12	6	
XN	0	0	1	1	0	2	0	2	0	
合計	36	5	27	9	6	83	41	36	6	
Y有り	27	4	18	4	0	53	31	22	0	
Y%	0.75	0.8	0.6667	0.4444	0	0.6386	0.7561	0.6111	0	

b	総合	初級	初～中級	中級	中～上級	上級	合計	3初級	3中級	3上級
YY	7	1	7	1	0	16	8	8	0	
YN	13	0	1	0	0	14	13	1	0	
NY	1	1	1	0	0	3	2	1	0	
NN	6	0	2	0	3	11	6	2	3	
XN	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
合計	27	2	11	1	3	44	29	12	3	
Y有り	21	2	9	1	0	33	23	10	0	
Y%	0.7778	1	0.8182	1	0	0.75	0.7931	0.8333	0	

c	会話	初級	初～中級	中級	中～上級	上級	合計	3初級	3中級	3上級
YY	1	0	1	1	0	3	1	2	0	
YN	2	1	0	0	0	3	3	0	0	
NY	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
NN	0	0	2	0	1	3	0	2	1	
XN	0	0	1	1	0	2	0	2	0	
合計	3	1	4	2	1	11	4	6	1	
Y有り	3	1	1	1	0	6	4	2	0	
Y%	1	1	0.25	0.5	0	0.5455	1	0.3333	0	

d	聴解	初級	初～中級	中級	中～上級	上級	合計	3初級	3中級	3上級
YY	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
YN	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
NY	0	0	0	1	0	1	0	1	0	
NN	2	1	0	3	0	6	3	3	0	
XN	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
合計	2	1	0	4	0	7	3	4	0	
Y有り	0	0	0	1	0	1	0	1	0	
Y%	0	0	0	0.25	0	0.1429	0	0.25	0	

e	読解	初級	初～中級	中級	中～上級	上級	合計	3初級	3中級	3上級
YY	0	0	3	1	0	4	0	4	0	
YN	2	0	5	0	0	7	2	5	0	
NY	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
NN	1	0	4	0	2	7	1	4	2	
XN	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
合計	3	0	12	1	2	18	3	13	2	
Y有り	2	0	8	1	0	11	2	9	0	
Y%	0.6667	0	0.6667	1	0	0.6111	0.6667	0.6923	0	

f	作文	初級	初～中級	中級	中～上級	上級	合計	3初級	3中級	3上級
YY	0	1	0	0	0	1	1	0	0	
YN	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
NY	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
NN	0	0	0	1	0	1	0	1	0	
XN	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
合計	0	1	0	1	0	2	1	1	0	
Y有り	0	1	0	0	0	1	1	0	0	
Y%	0	1	0	0	0	0.5	1	0	0	

文型集計表 3

年代別	レベル										YorN					
	50~54	55~59	60~64	65~69	70~74	75~79	80~84	85~89	90~94	合計	50年代	60年代	70年代	80年代	90年代	
a	全体	50~54	55~59	60~64	65~69	70~74	75~79	80~84	85~89	90~94	合計	50年代	60年代	70年代	80年代	90年代
	YY	0	0	0	1	2	0	7	7	16	33	0	1	2	14	16
	YN	0	1	0	2	1	3	5	17	9	39	1	2	4	23	9
	NY	0	0	0	0	0	0	0	2	2	4	0	0	0	2	2
	NN	5	0	0	1	1	5	7	15	13	49	6	1	7	22	13
	XN	0	0	0	0	0	0	0	3	0	3	0	0	0	3	0
	合計	5	1	0	4	4	8	20	44	40	128	7	4	13	64	40
	Y有り	0	1	0	3	3	3	13	25	27	76	1	3	6	39	27
	Y%	0	1	0	0.75	0.75	0.3333	0.65	0.5909	0.675	0.5938	0.1429	0.75	0.4615	0.6094	0.675
b	互換	50~54	55~59	60~64	65~69	70~74	75~79	80~84	85~89	90~94	合計	50年代	60年代	70年代	80年代	90年代
	YY	0	0	0	0	2	0	2	4	7	15	0	0	2	5	7
	YN	0	1	0	1	1	2	5	12	3	26	1	1	3	15	3
	NY	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	1
	NN	2	0	0	0	0	0	3	5	4	14	2	0	0	8	4
	XN	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	合計	2	1	0	1	3	2	11	21	15	55	3	1	5	32	15
	Y有り	0	1	0	1	3	2	8	16	11	42	1	1	5	24	11
	Y%	0	1	0	1	1	1	0.7273	0.7619	0.7333	0.75	0.3333	1	1	0.75	0.7333
c	互~中	50~54	55~59	60~64	65~69	70~74	75~79	80~84	85~89	90~94	合計	50年代	60年代	70年代	80年代	90年代
	YY	0	0	0	0	0	0	2	1	0	3	0	0	0	3	0
	YN	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	1
	NY	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	1
	NN	1	0	0	0	0	0	0	1	3	1	0	0	0	1	1
	XN	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	合計	1	0	0	0	0	0	2	2	3	8	1	0	0	4	3
	Y有り	0	0	0	0	0	0	2	1	2	5	0	0	0	3	2
	Y%	0	0	0	0	0	0	1	0.5	0.6667	0.625	0	0	0	0.75	0.6667
d	互~取	50~54	55~59	60~64	65~69	70~74	75~79	80~84	85~89	90~94	合計	50年代	60年代	70年代	80年代	90年代
	YY	0	0	0	1	0	0	3	1	6	11	0	1	0	4	5
	YN	0	0	0	1	0	0	5	4	10	0	1	0	5	4	
	NY	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	1	0	
	NN	0	0	0	0	0	3	1	3	4	11	0	0	3	4	
	XN	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	1	
	合計	0	0	0	2	0	3	4	11	14	34	0	2	3	15	14
	Y有り	0	0	0	2	0	3	7	10	22	0	2	0	10	10	
	Y%	0	0	0	1	0	0	0.75	0.6364	0.7143	0.6471	0	1	0	0.6667	0.7143
e	互~上	50~54	55~59	60~64	65~69	70~74	75~79	80~84	85~89	90~94	合計	50年代	60年代	70年代	80年代	90年代
	YY	0	0	0	0	0	0	1	3	4	0	0	0	1	3	
	YN	0	0	0	0	0	1	0	1	2	0	0	1	0	1	
	NY	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	
	NN	1	0	0	0	0	0	3	2	6	1	0	0	3	2	
	XN	0	0	0	0	0	0	2	0	2	0	0	0	2	0	
	合計	1	0	0	0	0	1	7	6	15	1	0	1	7	6	
	Y有り	0	0	0	0	0	1	0	2	4	7	0	0	1	2	
	Y%	0	0	0	0	0	1	0	0.2857	0.6667	0.4667	0	0	1	0.2857	0.6667
f	互~取	50~54	55~59	60~64	65~69	70~74	75~79	80~84	85~89	90~94	合計	50年代	60年代	70年代	80年代	90年代
	YY	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	YN	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	NY	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	NN	2	0	0	1	1	3	3	3	2	15	2	1	4	6	
	XN	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	合計	2	0	0	1	1	3	3	3	2	15	2	1	4	6	
	Y有り	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	Y%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		

文型集計表 4

年代別	技能	YorN										合計	50年代	60年代	70年代	80年代	90年代
		50~54	55~59	60~64	65~69	70~74	75~79	80~84	85~89	90~94							
a	全体	0	0	0	1	2	0	9	5	16	33	0	1	2	14	16	
	YY	0	1	0	2	1	3	6	17	9	39	1	2	4	23	9	
	YN	0	0	0	0	0	0	0	2	2	4	0	0	0	2	2	
	NY	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	NN	6	0	0	1	1	2	7	15	13	49	6	1	7	22	13	
	NN	0	0	0	0	0	0	0	3	0	5	0	0	0	5	0	
	XN	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	合計	6	1	0	4	4	9	22	42	40	128	7	4	13	64	40	
	Y有り	0	1	0	3	3	3	15	24	27	76	1	3	6	39	27	
	Y%	0	1	0	0.75	0.75	0.3333	0.6818	0.5714	0.675	0.5938	0.1429	0.75	0.4615	0.6094	0.675	
b	総合	0	0	0	0	0	0	7	5	9	24	0	1	2	12	9	
	YY	0	0	0	1	2	0	7	5	9	24	0	1	2	12	9	
	YN	0	0	0	2	1	2	6	14	1	26	0	2	3	20	1	
	NY	0	0	0	0	0	0	0	1	2	3	0	0	0	1	2	
	NN	6	0	0	1	0	3	3	6	5	26	6	1	5	9	5	
	NN	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	XN	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	合計	6	0	0	4	3	7	16	26	17	79	6	4	10	42	17	
	Y有り	0	0	0	3	3	2	13	20	12	53	0	3	5	33	12	
	Y%	0	0	0	0.75	1	0.2857	0.8125	0.7692	0.7059	0.6709	0	0.75	0.5	0.7357	0.7059	
c	会務	0	0	0	0	0	0	0	4	0	4	0	0	0	0	4	
	YY	0	0	0	0	0	0	0	4	0	4	0	0	0	0	4	
	YN	0	0	0	0	0	0	0	1	2	3	0	0	0	0	0	
	NY	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	NN	0	0	0	0	0	1	4	2	1	8	0	0	1	6	1	
	NN	0	0	0	0	0	0	0	3	0	3	0	0	0	3	0	
	XN	0	0	0	0	0	0	1	4	8	7	18	0	0	1	10	7
	合計	0	0	0	0	0	1	4	8	7	18	0	0	0	1	10	7
	Y有り	0	0	0	0	0	0	0	1	6	7	0	0	0	1	6	7
	Y%	0	0	0	0	0	0	0	0.1667	0.6571	0.3889	0	0	0	0	0.1	0.6371
d	歌謡	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	YY	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	YN	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	NY	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	1	0	
	NN	0	0	0	0	0	0	0	3	3	6	0	0	0	3	3	
	NN	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	XN	0	0	0	0	0	0	0	4	3	7	0	0	0	4	3	
	合計	0	0	0	0	0	0	0	4	3	7	0	0	0	4	3	
	Y有り	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	1	0	
	Y%	0	0	0	0	0	0	0	0.25	0	0.1429	0	0	0	0.25	0	
e	舞臺	0	0	0	0	0	0	0	0	3	3	0	0	0	0	3	
	YY	0	1	0	0	0	1	0	2	6	10	1	0	1	2	6	
	YN	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	NY	0	0	0	0	1	0	0	3	1	8	0	0	1	3	4	
	NN	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	NN	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	XN	0	1	0	0	1	1	0	5	13	21	1	0	2	5	13	
	合計	0	1	0	0	1	1	0	5	13	21	1	0	2	5	13	
	Y有り	0	1	0	0	1	1	0	2	9	13	1	0	1	2	9	
	Y%	0	1	0	0	0	1	0	0.4	0.6923	0.619	1	0	0.5	0.4	0.6923	
f	作文	0	0	0	0	0	0	2	0	0	2	0	0	0	2	0	
	YY	0	0	0	0	0	0	2	0	0	2	0	0	0	2	0	
	YN	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	NY	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	NN	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	1	0	0	
	NN	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	XN	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	合計	0	0	0	0	0	0	2	1	0	3	0	0	0	3	0	
	Y有り	0	0	0	0	0	0	2	0	0	2	0	0	0	2	0	
	Y%	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0.6667	0	0	0	0.6667	0	

文型集計表 5

年代別	技能 レベル														
年代別	50~54	55~59	60~64	65~69	70~74	75~79	80~84	85~89	90~94	合計	50年代	60年代	70年代	80年代	90年代
a 全般	2	1	0	1	3	2	11	21	15	56	3	1	5	32	15
初級	2	1	0	1	3	2	11	21	15	56	3	1	5	32	15
初~中	1	0	0	0	0	0	2	3	3	9	1	0	0	5	3
中級	0	0	0	2	0	3	4	11	14	34	0	2	3	15	14
中~上	1	0	0	0	1	0	6	6	14	14	1	0	1	6	6
上	2	0	0	1	1	3	3	3	2	15	2	1	4	6	2
合計	6	1	0	4	4	9	20	44	40	128	7	4	13	64	40

年代別	技能 レベル														
年代別	50~54	55~59	60~64	65~69	70~74	75~79	80~84	85~89	90~94	合計	50年代	60年代	70年代	80年代	90年代
b 総合	2	0	0	1	3	2	11	19	8	46	2	1	5	30	8
初級	2	0	0	1	3	2	11	19	8	46	2	1	5	30	8
初~中	1	0	0	0	0	0	2	0	3	5	1	0	0	2	3
中級	0	0	0	2	0	3	3	6	3	17	0	2	3	9	3
中~上	1	0	0	0	0	0	0	0	1	2	1	0	0	0	1
上	2	0	0	1	0	2	0	1	2	8	2	1	2	1	2
合計	6	0	0	4	3	7	16	26	17	79	6	4	10	42	17

年代別	技能 レベル														
年代別	50~54	55~59	60~64	65~69	70~74	75~79	80~84	85~89	90~94	合計	50年代	60年代	70年代	80年代	90年代
c 会報	0	0	0	0	0	0	0	2	3	5	0	0	0	2	3
初級	0	0	0	0	0	0	0	2	3	5	0	0	0	2	3
初~中	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
中級	0	0	0	0	0	0	1	2	2	5	0	0	0	3	2
中~上	0	0	0	0	0	0	0	2	2	4	0	0	0	2	2
上	0	0	0	0	0	1	3	0	0	4	0	0	1	3	0
合計	0	0	0	0	0	1	4	6	7	18	0	0	1	10	7

年代別	技能 レベル														
年代別	50~54	55~59	60~64	65~69	70~74	75~79	80~84	85~89	90~94	合計	50年代	60年代	70年代	80年代	90年代
d 専修	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	0	0	0	0	2
初級	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	0	0	0	0	2
初~中	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	1	0
中級	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
中~上	0	0	0	0	0	0	0	3	1	4	0	0	0	3	1
上	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	0	0	0	0	0	0	0	4	3	7	0	0	0	4	3

年代別	技能 レベル														
年代別	50~54	55~59	60~64	65~69	70~74	75~79	80~84	85~89	90~94	合計	50年代	60年代	70年代	80年代	90年代
e 読解	0	1	0	0	0	0	0	0	2	3	1	0	0	0	2
初級	0	1	0	0	0	0	0	0	2	3	1	0	0	0	2
初~中	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
中級	0	0	0	0	0	0	0	3	9	12	0	0	0	3	9
中~上	0	0	0	0	0	1	0	0	2	3	0	0	1	0	2
上	0	0	0	0	1	0	0	2	0	3	0	0	1	2	0
合計	0	1	0	0	1	1	0	5	13	21	1	0	2	5	13

年代別	技能 レベル														
年代別	50~54	55~59	60~64	65~69	70~74	75~79	80~84	85~89	90~94	合計	50年代	60年代	70年代	80年代	90年代
f 作文	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
初級	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
初~中	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2	0	0	0	2	0
中級	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
中~上	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	1	0
上	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	0	0	0	0	0	0	0	3	0	3	0	0	0	3	0

## 2.4 教科書調査の考察

今回の教科書調査は、調査した数も少なく、年代も1950年代以降に限られたものであるので、この調査の考察からはっきりとした結果を導くことはできない。しかしながら、傾向としてはいろいろなことを指摘することができると考えられる。〔本文中の( )の中は、その傾向が読み取れる文型集計表に対応する。〕

### 2.4.1 全体の傾向

「文型」という術語(以下、記述が煩雑になるため、「という術語」は省略する)が前文、本文いずれかに用いられるものといずれにも用いられていないものの割合は、6:4となる。レベル別の、「文型」を用いている割合は、初級が約73%、中級が約60%、上級0%となっている(1-a)。この傾向は、ある程度常識的に予想できるものではあるが、ここから、初級、中級段階において、かなりの教科書が「文型」を意識して作られているということがわかる。また、2巻以上のシリーズで発行された教科書を1つのもんとして集計してみると(「文型」の記述に関しては、第1巻の記述を採用して集計)、前文、本文共に「文型」の記述があるもの、前文のみに「文型」の記述があるもの、「文型」の記述がないもの、それぞれの数がほぼ同じとなる(2-a)。この集計(2-a)からは他にも、総合教科書を中心とするシリーズで発行された教科書の方が、1冊で完結する教科書よりも「文型」を用いている割合が高いことも読み取ることができる。

年代別に「文型」が用いられる割合の増減を見てみると、「文型」を用いる割合は、70年代後半に下降したものの、80年代になるとまた上昇し、そのまま90年代に至っている。特に90年代では、前文、本文共に「文型」が用いられているものが多く(前文、本文共に出ているものが、前文のみに出ているものの2倍以上)、注目に値する(3-a)。「文型」を用いる割合が音声関連の教材よりも文字関連の教材に多いことを考えると(1-e・1-f)、90年代に読解教材が増えたこと(5-e)からの影響があるとも考えられるが、近年の「コミュニケーション重視」の教育が発展する中で、「文型」

から脱却して行くのではないかという予想とは相反する傾向が見られた。また、70年代後半の「文型」を用いる割合の減少は、イノベーティブアプローチの浸透、もしくはコミュニケーションアプローチの影響が原因かと思われるが、この点に関しては更なる調査を必要とする。50年代の「文型」を用いる割合の低さについては、そのころの教科書の多くが“読本”であることを反映しており(調査対象一覧表参照)、教科書の中に文型を含めるといった、「文型」・パターンプラクティス中心の日本語教育の前段階であったことがうかがえる。

#### 2.4.2 レベル別に見た場合

初級において「文型」を用いる割合が75%と高く(1-a)、日本語の基礎として「文型」をとらえる傾向が強いことを示している。また、「文型」の記述がある初級教科書は、前文、本文共に「文型」の記述が見られるものよりも、前文のみに「文型」の記述があるものが多い(1-a)。これは、文型というものを意識して作られているものの、作成者が、学習者に対して「文型」という術語を提示することを避けた結果、もしくは、提示する必要を感じなかった結果だと考えられる。

中級教材に関しては、80年代に比べて、90年代に「文型」を用いる割合が高くなっており(3-d)、なかでも中級と上級両方を対象として作られた教科書に「文型」が用いられる割合が高いことは特徴的である(3-e)。一方、上級に関しては、調査した上級教科書15冊のすべてに「文型」の記述がない(3-f)。

#### 2.4.3 技能別に見た場合

本調査では、教科書の種類として総合教科書が一番多く、2番目に読解、3番目に会話の順となっている(5)。総合教科書は「文型」を用いる割合が約67%と最も高くなっており、これは、初級教科書の約84%、中級教科書の82%が総合教科書であることの影響であると考えられる(4-b)。総合教科書の出版件数は、80年代後半が最も多く、90年代に入ると減少している(5)。

それに対して、読解教科書はその6割が90年代に出版されている(5)。読解教科書も、その約64%に「文型」が用いられており、中級においては73%の教科書に「文型」の記述が見られる(1-e)。90年代だけを見れば、69%が「文型」を用いており(4-e)、この増加が90年代全体の「文型」を用いる割合の増加傾向に反映している。このことから、90年代に入り、読解教科書の中でも正確さを身につけさせようとする動きのあることが見られる。

聴解、会話、作文については、調査した教科書の数が少ないが、以下のことがわかる。

聴解教科書は、「文型」を用いている割合が最も低い。全体で7冊の教科書を調査しただけであるが、そのうちで「文型」の記述があるものは、1つだけだった(1-d)。

会話教科書は、全体では約39%が「文型」を用いており、技能全般から見れば低い方である(1-c)。しかし、80年代から90年代への推移を見ると、80年代には10%の教科書に「文型」が用いられているだけなのに対し、90年代では約86%の教科書に「文型」が用いられている(4-c)。また、80年代には「文型」を否定的に記述してある教科書が3つあるが、90年代には1つもない。このことから、会話という技能を考えた場合、80年代までは、構造的な正確さをあまり気にせずに教えてきた、もしくは軽視してきたが、90年代に入り、会話という技能においても「正確さ」を重視する傾向が出てきたということが考えられる。

作文教科書に関しては80年代に出版された3冊の教科書しか調査していないので、特にこれといった傾向を指摘することはできない(1-f)。

以上、今回の128冊の教科書調査から考えられることを記述してきた。

まだ調査をしていない50年代以前の教科書、今回調査することができなかった教科書、「文型」に相当する訳語を決定した上で英語などの外国語で書かれた教科書を調査することにより、今回提出した傾向が変化する可能性も考えられる。今後は、調査の対象を広げ、データ数を増やした上

で改めて傾向を考察していきたいと考える。

## おわりに

以上、「文型」の本質を明らかにするための第一段階として、研究的立場、教育的立場の両面に関する調査から、これまでの日本語教育における「文型」の位置づけを試みた。

特に初級段階における日本語教育と「文型」との関わりの強さを再確認することになったわけだが、本稿においては「文型」が日本語教育において果たしてきた役割を客観的に位置づけることに重点を置いたため、その役割をどのように評価するか、そしてさらに言語教育における「文型」の真の役割とは何かということなどについては、これからの課題となる。

今後は、「文型」とは何かを追究していくとともに、何を「文型」としているのか、また何を「文型」とするべきなのか、するべきではないのか、ということについても考察していきたいと思っている。